

教科名	地歴科	科目名	地理総合	学年	2年	単位数	2
教科書	高校生の歴史総合 新詳高等地図		副教材	図説地理資料 世界の諸地域 NOW2023			

1 科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、現在ある課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び、社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習について

① 予習・復習の方法

予習：予想される本文を2ページ程度読み、不明な用語・語句の意味調べなどを行う。

復習：授業を通して、理解できたこと、分からなかったところを確認する。

② 授業における学習方法と家庭学習の方法

授業は常に積極的に理解に努める姿勢で向かい、自ら思考する努力をする。ノートは復習しやすい取り方を念頭に書く。授業後はその日の学習内容について、振り返り、課題は期限を守って提出する。

3 学習計画

考查		単元名（学習項目）	学習内容（ねらい）
前期	前期 中間	地図や地理情報システム でとらえる現代世界	①地球儀や地図から現代世界の姿を読み取り、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。またそれらを読み取る技能や、利用する技能を身につける。 ②各種の地図の特徴、地図や地理情報システムの利用について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法を、主体的に追究し、課題を見いだす。
	前期 期末	国際理解と国際協力	①国家の領域、世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を理解する。そのための読図の技能を身につける。 ②国家の領域、世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現する。 ③国家の領域、世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだす。
後期	後期 中間	国際理解と国際協力	①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにもみられる防災・減災への取り組みを理解する。防災・減災への取り組みを見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②どのような自然災害がどのような場所で生じるのか、日本の自然災害の特徴、防災・減災への取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだす。
	学年 末	持続可能な地域づくりと 私たち	

4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な学習を通して、基礎的知識を身につけるとともに情報を収集すること・情報を読み取ること・情報をまとめることができる。	地理的事象の存在・変化する意味を自然環境や歴史的背景を踏まえて思考し、SDGsの観点から今後のあべき姿を判断・表現できる。	地理に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究・解決しようとする。

5 評価方法

計70時間（50分授業）

上記の観点を踏まえ、定期考査・課題考査・授業内小テストの成績、単元ごとの課題、宿題などの提出された課題、学習態度等を以下の割合で総合的に評価する。

知識・技能…50% 思考・判断・表現…40% 主体的に学習に取り組む態度…10%